

寺報は無料、不要の方は一報下さい。

第232号

# 龍源寺報

令和3年 孟蘭盆号

派 寺 心 妙 宗 濟 臨  
樹 信 原 松 妙 心 寺  
樹 覺 原 松 宗 濟 臨  
行 行 原 松 宗 濟 臨  
TEL 3451-1853  
FAX 3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com URL: http://www.ryugenji.com

## 孟蘭盆会におもう

松原 信樹

私達は、普段の生活の中で自然と時間の「ものさし」のようなものを受け入れてきた。例えば、花が咲くまで、子供が大人になるまで、コロナが終息するまで等、それぞれ異なった時間の展開というものがある。私達はそのような時間的図式のようなものをすでに早くから自然と学習してきており、それらを当然のこととして受け入れてきた。例えば、平均寿命について言えば、ある一定の時にこの世を去ってゆく者として自分自身を位置づけていく。そのような時、自分は本当に小さな存在として意識されることは否定できない。こうしたことを、わからないものとして見なすか、もしくは、人間は、初めと終わりを持ったものと見なし、出来事の連鎖を哲学や宗教と絡めて考えるか。また、自然も歴史も多くの面で、規則性を秘めているから、反復と規則において把握しようとするような考え方も出てくる。

今回の緊急事態宣言においても、一連のコロナ禍で起きている事態は、ある程度見えてきている。上述した時間論で言えば、コロナ禍という非常時において、私達は一貫して遅い方を選択してきた。

議論を形成して法を作るとするのは、民主主義の平時の論理である。つまり、民主主義のキーワードは遅さであり、それに対して、一気呵成に行うことが、非常時において求められることに気づかされたのは私だけではないだろう。さらに、この国の構造上の問題はどのようなものであって、それを直すにはどうすればよいのかということが議論されなければならないと思う。例えば、原発事故にしても、日本は最先端の技術を持った国だから、原発事故が起きない先鋭化されたものを作っていくということに注力していった結果、事故は起きないという神話が作られた。仏教的に言えば、世の中は無常であるから、想定外のことが起こる。今後、コロナでない形で非常事態が起きた時にどうするかということまで議論しないと、今回のコロナが終息したら、ほとんどの人が今回のことを全て忘れて平時に戻っていくことだろう。政治家の方々や市長の方々は目の前の仕事に忙殺されているのは痛いほどよくわかるけれども、コロナを越えるような、それは、戦争なのか災害なのかわからないけれども、非常事態が起こった時に果たしてどうするかということを見通しをもって議論することが肝要だと思う今日この頃である。

柳 緑

花 紅

孟蘭盆会を迎えます。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

日本で孟蘭盆会の行事が行われた記録は、推古十四年（六〇六年）に「この年から始めて

寺毎に四月八日（灌仏会）・七月十五日

（孟蘭盆会）に齋会をすることになった」

（『日本書紀』巻第二十二・推古天皇条）

とあり、斉明天皇五年（六五九年）に

「十五日、群臣に詔して、京内の諸寺に、

孟蘭盆経を講説させて七世の父母に報い

させられた。（『日本書紀』巻第二十六・

斉明天皇条）とあります。大変歴史のあ

る仏教行事であることがわかります。▼今、

原稿を書いているのは六月六日、哲明和

尚の命日です。何人かの布教師の和尚さ

まより、連絡をいただき遺徳を偲びまし

た。法要と墓参は寺族で行わせていただき

きました。早いもので今年は、祖父・泰

道、祖母・志ずの十三回忌法要にあたり

ます。泰道和尚、哲明和尚のようにはな

かなかいきませんが、未熟者、精進して

いきたいと思えます。多くの方々に助け

ていただきながら、龍源寺を護持させて

いただいております。深く感謝を申し上げます。▼コロナ禍にもかかわらず、例年の如く、お寺の境内は今年も茉莉花の花が咲き、梅の実が成りました。自然の営みの中に真理の一端をみる事ができます。▼緊急事態宣言の間は坐禅会など全ての定例会を休会と致しました。寺を維持していくことは大変ですが、その間、庫裏の整備と資料や図書の整理を主に行いました。▼私は五月で五十歳を迎えました。

振り返ってみますと四十歳からの十年と

いうのは、住職としての仕事にしろ、学

問にしろ本当に大切な時期だったと思

います。これからは、後継者のことなどを

念頭に入れ日々精進していきたいと思

います。最近では、学生時代に読んでいた

東西交渉史（シルクロード）の文献を読

み返しています。父の影響でしょうか。▼

一〇四歳になる祖母は、肺に水が溜まり、

自宅での看病が困難になり、病院で入院

しています。コロナ禍で面会もできず心

配していますが、病状は安定しているよ

うです。母は膝を痛めています。幸い

にもお医者さまのご縁に恵まれ改善致し

ました。家内は、龍源寺の仕事と子育て

とテレワークを含めた会社の仕事で忙し

くしています。娘の瑞樹は六月で五歳に

なります。私も幼稚園の送り迎えは、家

内が仕事で留守している時には致します

し、母もお弁当を作ったりします。最近、

同居がいいですねという声を耳にし

ます。結局は、同居も別居も一緒なので

しょう。共働きで慎ましく生活してい

ます。▼本紙三ページに、ダカーポさんの歌

で、哲明和尚が作詞した、小林亜星作曲

「こころの旅路―丘の尼寺は今―」の楽譜

を掲載致しました。楽器で弾いてみたり、

歌ってみて下さい。娘はこの歌が好き

たいでよく口ずさんでいます。哲明和尚

が聞いたら喜んだことでしょう。▼七月十

日午前十一時より、本堂にてお施餓鬼の

法要、お盆の法要を行います。新盆を迎

える方は、本堂の棚に白木のお位牌を安

置し供養させていただきます。また、今

年のお正月に作りました、疫病退散のお

札を本堂に安置しておりますので、ご希

望の方はお持ち帰りください。（信樹）

## ご寄付

金五万円 稲川りよ子殿

かんのんさまに

金三万円 飯沼定子殿

金三千元 佐藤貴子殿

ありがとうございました

※大変貴重なご寄付をありがとうございました。現在龍源寺のある古川橋周辺は、大規模な再開発が行われております。そのような中で、寺院を文化資源の一つとして考え、境内整備に力を入れています。未熟者ですが今後とも宜しくお願い申し上げます。

松原信樹

## 盂蘭盆会

一、七月十日（土曜日）

午前十一時より

・駐車場はありません。

南北線をご利用ください。

## お願い

※新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、本年の盂蘭盆会の法要は、階段・エレベーターを使って、お焼香をお願い致します。午前十一時より、読経時間は二十分です。その間にご来山下さい。

# この旅路 - 丘の足跡は今 -

作詞 松原 哲明  
作曲 小林 重雄

Handwritten musical score for guitar with lyrics. The score consists of 8 staves of music with corresponding Japanese lyrics written below each staff. Chord diagrams are indicated above the notes.

Lyrics:  
 めどりの - - しええ めめのおひか あき - のわ  
 いえ - - このろ か めれ と く め 二二  
 く - - にほれ め ほとみらと おり - のい  
 え - - じしのか あじと うさま - に と  
 といのとしい い あるとわしのかのい のい  
 かに - たつ と ひとりの - いのち  
 いとおしく たのみの - おいの おまじら は  
 い ま ば は り

## この旅路

小林重雄

1. この旅路の足跡は今

2. この旅路の足跡は今

3. この旅路の足跡は今

4. この旅路の足跡は今

5. この旅路の足跡は今

6. この旅路の足跡は今

7. この旅路の足跡は今

8. この旅路の足跡は今

9. この旅路の足跡は今

10. この旅路の足跡は今

11. この旅路の足跡は今

12. この旅路の足跡は今

13. この旅路の足跡は今

14. この旅路の足跡は今

15. この旅路の足跡は今

16. この旅路の足跡は今

17. この旅路の足跡は今

18. この旅路の足跡は今

19. この旅路の足跡は今

20. この旅路の足跡は今

21. この旅路の足跡は今

22. この旅路の足跡は今

23. この旅路の足跡は今

24. この旅路の足跡は今

25. この旅路の足跡は今